

『仮称・市民文化ホール』建設基本計画（案）に対する パブリックコメントの結果を公表します

『仮称・市民文化ホール』建設基本計画（案）について、いただいた主な意見とそれに対する市の考え方の概要を公表します。

紙面の都合上、いただいたご意見と市の考え方の全てを掲載できませんが、市ホームページ等※で詳細を公表していますので、ご覧ください。

※ 市役所情報公開コーナー、大ホール建設担当窓口、市立公民館、若狭野多目的研修センターでも閲覧できます。

実施期間	意見提出者	意見件数
平成 24 年 7 月 10 日から 7 月 31 日まで	21 人	91 件

✉ 建設場所として、相生港埋立地が選定されているが、大地震により地盤の液状化や津波の到来が危惧される。他の場所※に建設すべきである。

※ 現地建替え、中央公園内、山手相生スポーツセンター周辺、ＩＨＩふれあい広場、民有の市街化調整区域 等

基本計画（案）では、複数の候補地の中から、総合的な判断のもとで、最も建設に適した場所として、相生港埋立地を選定しています。

市有地等の有効活用や建設に必要な面積確保、そして迅速な用地確定のためにも、相生港埋立地が、最適地と判断しました。

また、危惧される自然災害に対しては、地質調査の実施や施設自体の構造や配置の検討などにより、適切な対応をします。

✉ 芸術の振興にとどまらず、子育て、教育と芸術の融合を考えてはどうか。（カリキュラム中の音楽・ダンス(体育)との融合）

子どもの育成支援と地域(学校)との連携もホールの重要な役割であると考えています。そのための事業を「事業計画」の中で挙げている事業例に限らず、検討を進めます。

✉ ・ ホールの客席数は、６００～７００席程度が必要。６００人を超えるイベントで、入場制限の例もあった。設計の工夫で対処できないものか。
・ ５００席程度では採算の合う自主事業はできない。最低１,０００席は必要。
・ 客席数は５００席で十分。客席数の確保にお金をかけるのであれば、設備、使い勝手等にもっとお金をかける方が良い。

ホールを有効に稼働させるためには、その席数に見合った事業が継続的に展開されることが望まれますが、過大な席数のホールでは、建設においても事業運営においても過大な経費が必要となります。

新ホールは、演技・演奏など表現活動においても鑑賞においても市民が中心となる、相生市にふさわしいホールを目指します。建設経費や施設の全体規模などによる制約もありますが、これまで以上に積極的、継続的にホールを利用していただくことによる人づくりや地域の活性化を見据え、６００席程度の適切な規模のホールとします。



**市民会館中ホールの代替機能が確保できる多目的室になるよう設計してほしい。
展示スペースとして活用や、イベント、発表会、講演会等の使用頻度も高い。**

従来の市民会館中ホール機能のうち、特に、講演、会議、イベントなどの、概ね200人以上の利用については、出来る限り新ホールに吸収することとし、新ホールについては、従来の200人程度の利用人員での使い勝手の悪さを解消できるように、設計の中で検討します。

多目的室については、従来の市民会館中ホールを想定した活用も見据えて、展示機能など、必要な機能、面積の確保を図りながら、多用途な活用ができるようにします。



ホール内や舞台上の各種設備や機能の充実を図ってほしい。

ホールの設備や機能については、あくまでも利用の中心となる市民の皆さんが、さまざまな表現活動を行ううえで、使い勝手の良い、また、観客となる皆さんにとって安全で居心地の良いものとするのが不可欠です。

事業費規模と、それに伴う施設規模による制約はありますが、今後も、市民の皆さんのご意見をお聴きしながら、可能な限り、ホールの価値が高められるように設計に取り組んでいくこととします。



管理運営にかかる指定管理者への移行はできるだけ早い方が良い。

当初は直営とし、基本方針に基づいた、市民参画による管理運営と事業展開を軌道に乗せ、その中で事業経費の見極めもしながら、指定管理者への移行を図ることとなります。一方で、移行先として必要な能力を備えた指定管理者の確保も必要になります。あくまでも利用者のサービス向上につながるような移行とするための十分な期間は必要と考えます。



全体の事業費はどうか。

建設費19.2億円は、標準的な単価と概括的な必要面積により算出したものですが、建設費以外の、地質調査費・地盤改良工事費、備品購入費、設計委託費、舞台設計・音響コンサルタント、施工監理等も含めた現時点での想定額としては26億円程度を見込んでいます。



財政的に厳しい中で、新規に建築する必要性を感じない。新たな箱ものを作るよりも、既存施設の有効利用を考えるべき。

厳しい財政状況の中ですが、今後の「ひとづくり」と「まちづくり」を見据えて、市民の皆さんが交流し、新たな絆づくりの受け皿となる施設として、建設に取り組むものです。その目的のためにふさわしい設備等を備えたものが必要であると考えます。



建設中、建設後の近隣の生活環境への影響予測や影響抑止策等について示してください。

ホール施設の近隣環境への影響予測は不可欠で、予測調査の結果を的確に設計の中に反映させることとします。当然、工事中の近隣に対する影響抑止対策も、必要に応じて講じることとします。

問合せ先：相生市企画管理部 大ホール建設担当
電話：23-7118 FAX：22-6439
電子メール：teiju@city.aioi.hyogo.jp